

報道関係者 各位

令和2年7月20日
(照会先)
全国健康保険協会山形支部
企画総務グループ 佐藤
電話：023-629-7226

血圧・血糖値の改善 早期受診がポイント

協会けんぽでは、健康診断の結果から、血圧・血糖の値が高い方に対して、早期に医療機関を受診するよう受診勧奨を行っています。しかし、高血圧・高血糖などのいわゆる生活習慣病は、本人が自覚症状を感じにくいことから、医療機関への受診に至らない傾向があり、受診勧奨後の医療機関への受診率は約10.4%（平成30年度実績）と低迷しております。

そこで、協会けんぽでは、血圧・血糖値の改善には「早期受診が重要」であることを周知することを目的に、「平成28年度に血圧・血糖値に関して受診勧奨対象となった方のうち、協会けんぽからの受診勧奨から3か月以内に医療機関へ受診した方と、それ以外の方の翌年（平成29年度）及び翌々年（平成30年度）の健診受診時の血圧・血糖値の推移」について分析を行いましたので、その結果を公表いたします。

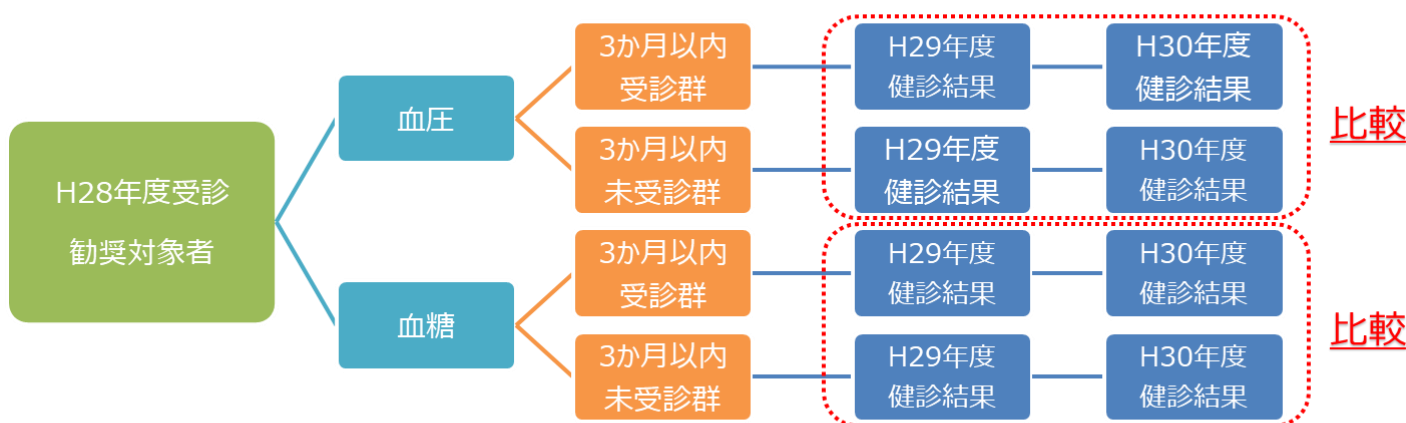
<調査対象>

①平成28年度に健診を受診した方で、血圧・血糖値が高く医療機関への受診が必要と判断された方のうち、平成29・30年度において健診受診歴がある方。

(退職者や3年連続して健診結果のない方を除外しています)

②平成28年度の健診受診月から半年経過後も医療機関への受診がない方。

上記①・②のいずれも満たす方で、協会けんぽによる受診勧奨から3か月以内に受診した方と、それ以外の方について調査しました。



分析対象者:2,841名 (H28年度に受診勧奨対象となった者のうち、H29・30年度のどちらも健診受診歴がある者)	血圧対象者 2,035名	3か月以内受診群	227名
		3か月以内未受診群	1,808名
	血糖対象者 806名	3か月以内受診群	104名
		3か月以内未受診群	702名

※協会けんぽでは、健診受診からおおむね半年経過後に受診勧奨を行っています。

※3か月以内未受診群には、未受診であった方に加え、協会けんぽからの勧奨実施後、4か月目以降に受診した方も含まれています。

※(参考)平成28年度生活習慣病予防健診受診者数：124,498名

<受診勧奨対象となる数値>

○血圧：収縮期血圧160mmHg以上、または拡張期血圧100mmHg以上

○血糖：空腹時血糖126mg/dl以上、またはHbA1c6.5%以上

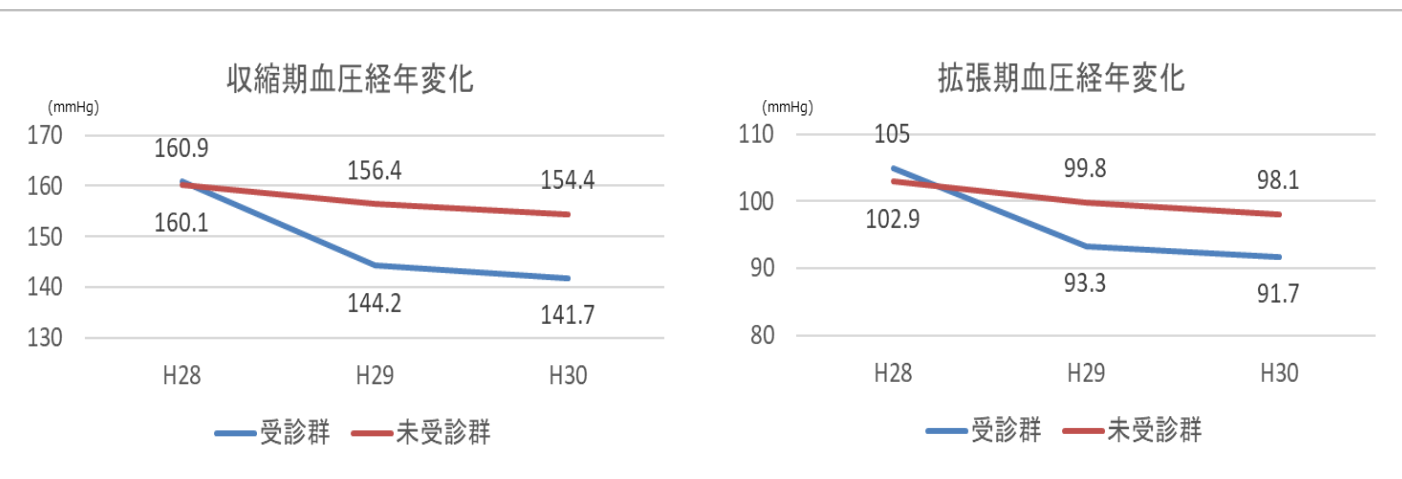
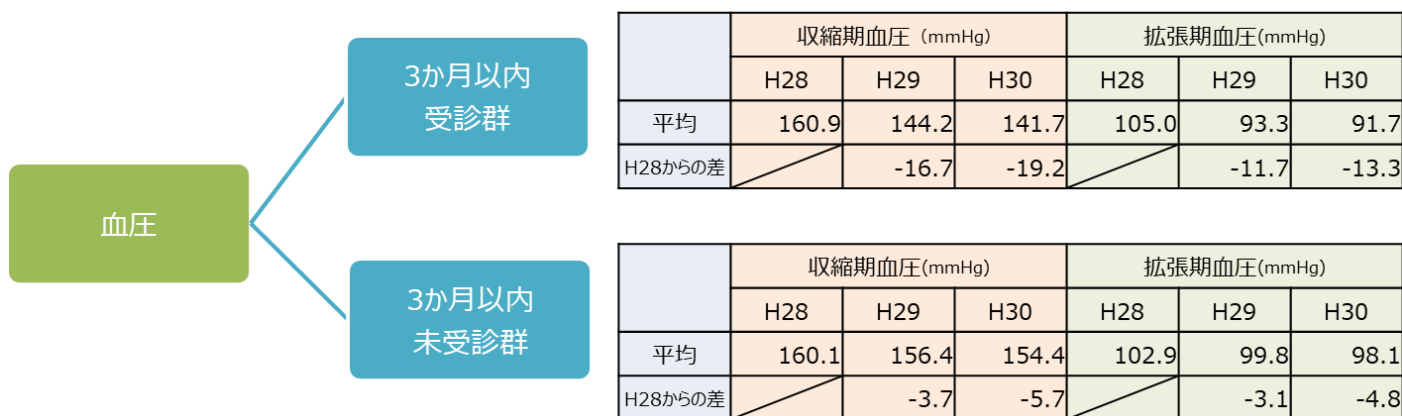
＜高血圧者に関する調査結果＞

高血圧により受診勧奨対象となった方（2,035名）のうち、“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の翌年度以降の健診結果（平均値）は以下の通りです。

3か月以内受診群の収縮期血圧は平成28年度と比較して

- ・H29年度：－16.7mmHg
- ・H30年度：－19.2mmHg

となり、未受診群と比較し大きな改善が見られました。

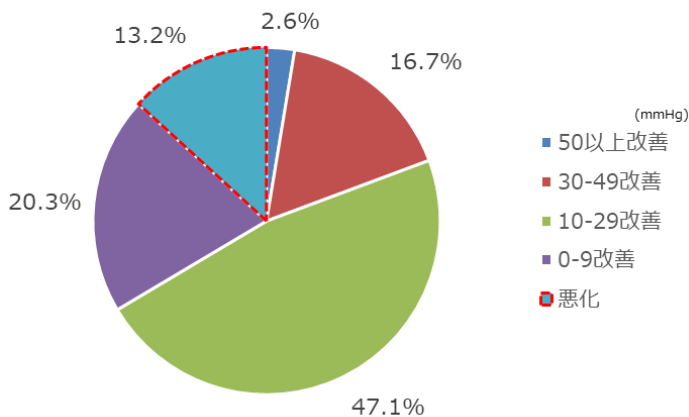


＜高血圧者に関する調査結果＞

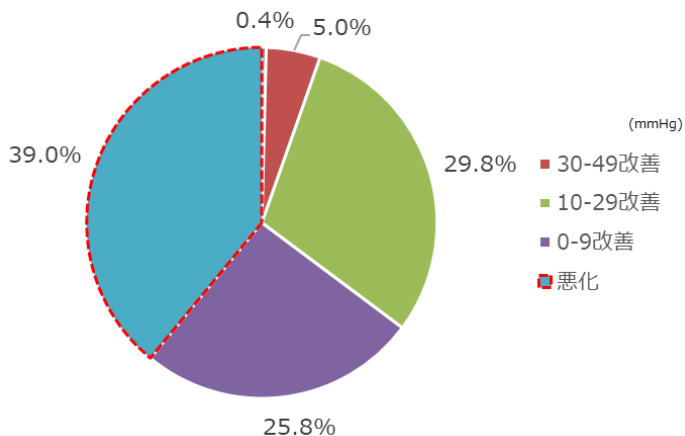
平成28年度と平成29年度の健診結果を比較した場合の、“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の数値の改善割合は以下の通りです。

受診群の多くが数値の改善に至っている一方、未受診群は4割程度に数値の悪化が見られます。

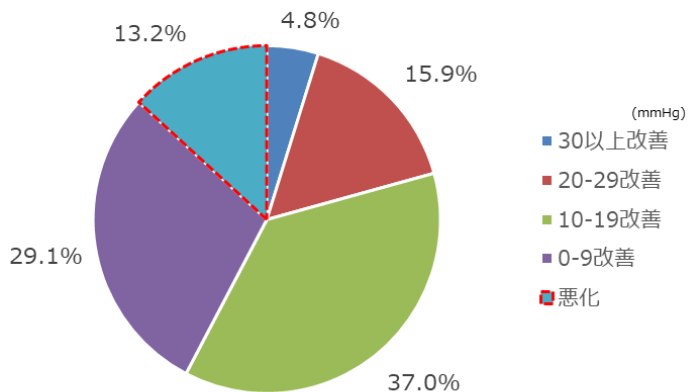
受診者_収縮期血圧改善割合_H28・29比較(n=227)



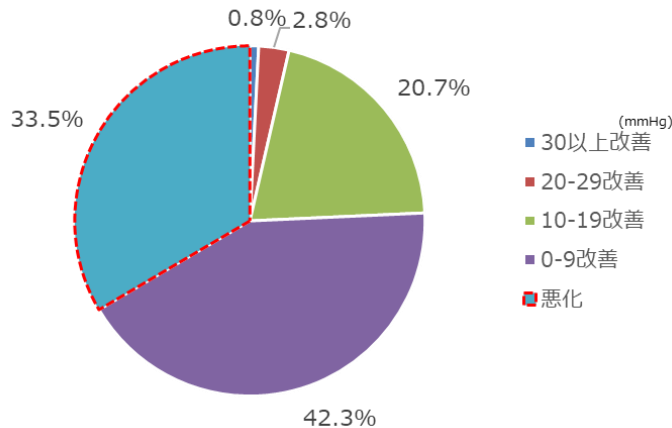
未受診者_収縮期血圧改善割合_H28・29比較(n=1,808)



受診者_拡張期血圧改善割合_H28・29比較(n=227)



未受診者_拡張期血圧改善割合_H28・29比較(n=1,808)

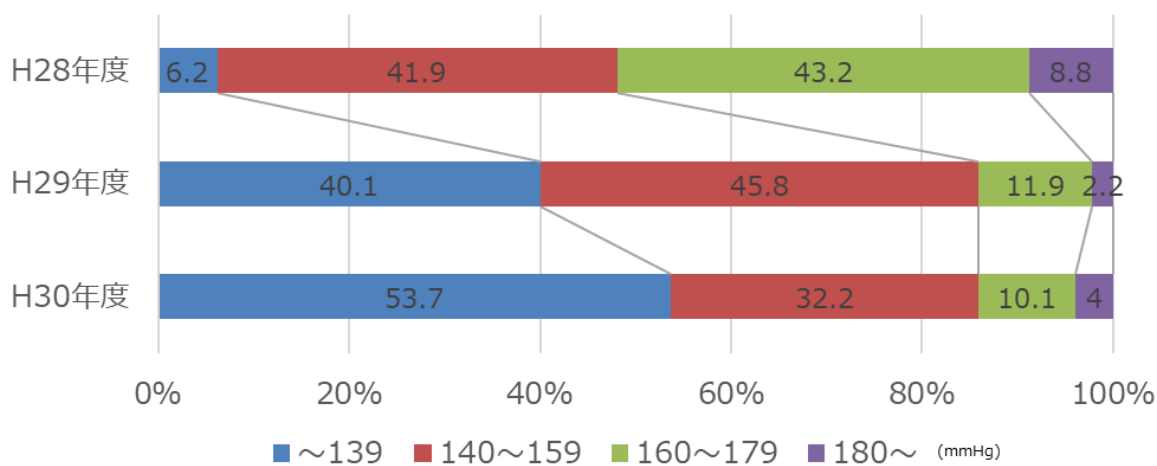


＜高血圧者に関する調査結果＞

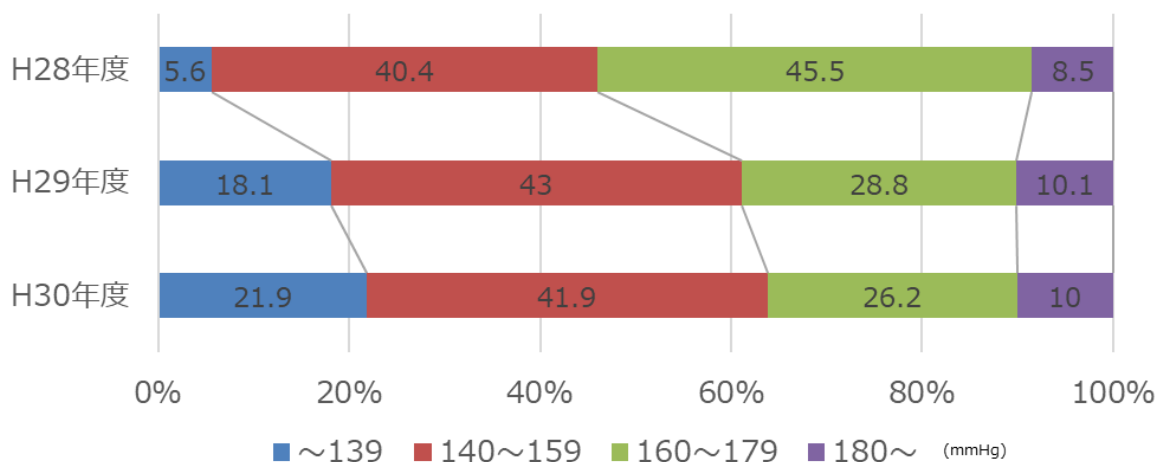
“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の血圧値構成割合の推移は以下の通りです。

受診者の多くが収縮期血圧139mmHg以下まで改善している一方、未受診群は重症化の傾向が見られます。

受診者_収縮期血圧構成割合（n = 227）



未受診者_収縮期血圧構成割合（n = 1,808）



<高血糖者に関する調査結果>

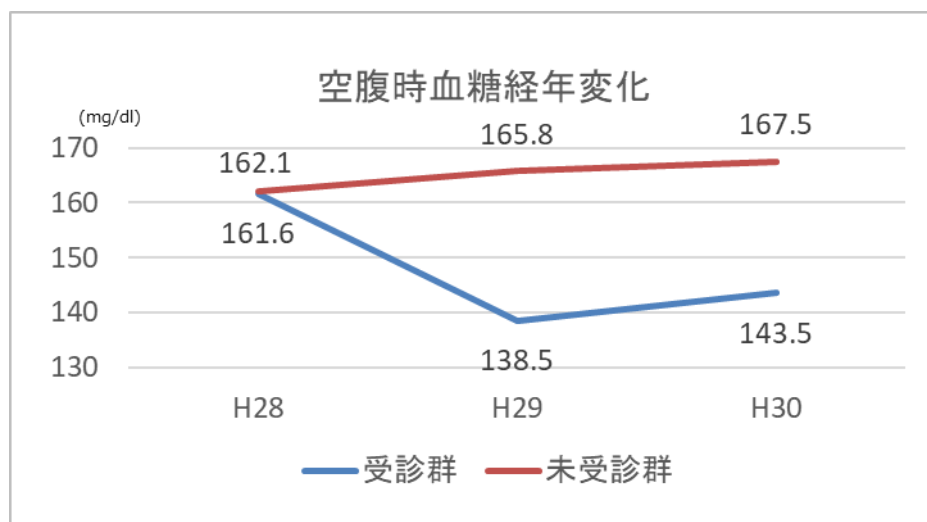
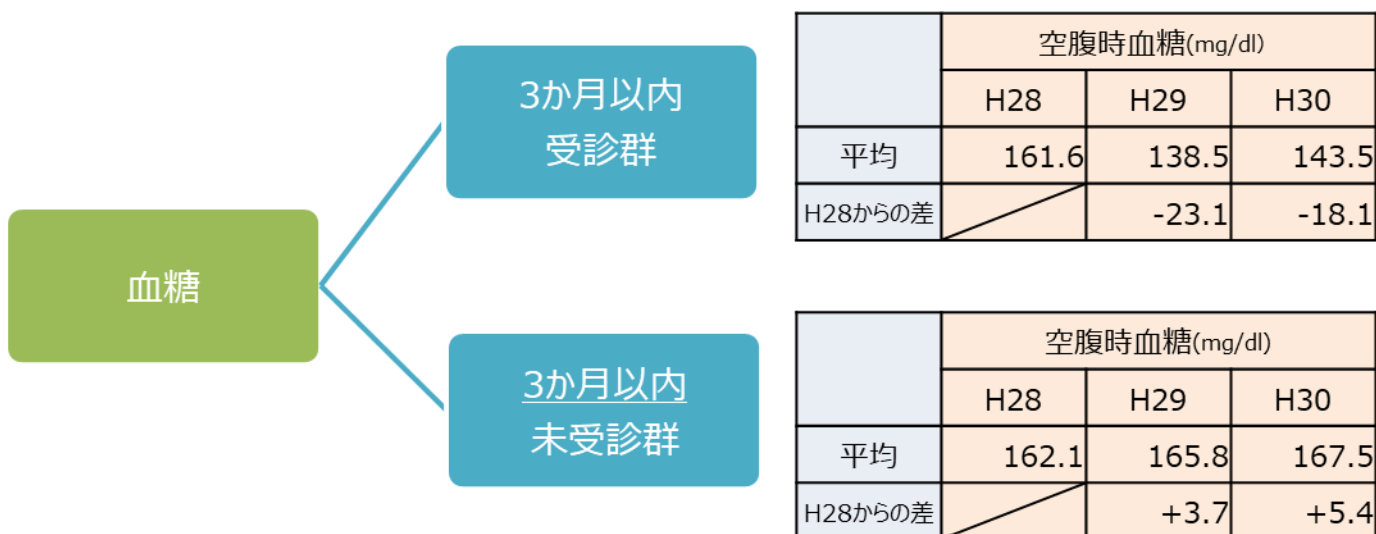
高血糖により受診勧奨対象となった方（806名）のうち、“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の翌年度以降の健診結果（平均値）は以下の通りです。

3か月以内受診群の空腹時血糖は平成28年度と比較して

H29年度：－23.1mg/dl

H30年度：－18.1mg/dl

となり、大きく改善が見られる一方、未受診群は数値の悪化が見られました。

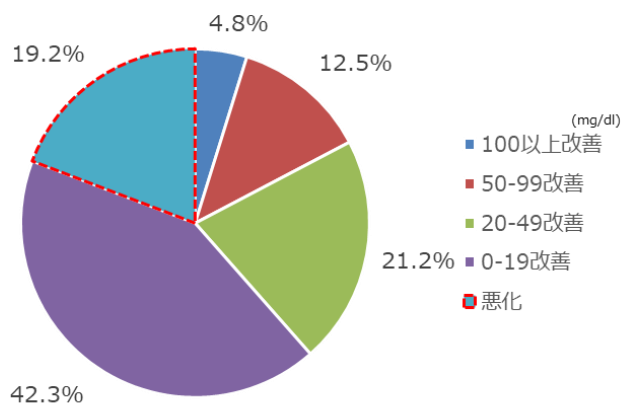


<高血糖者に関する調査結果>

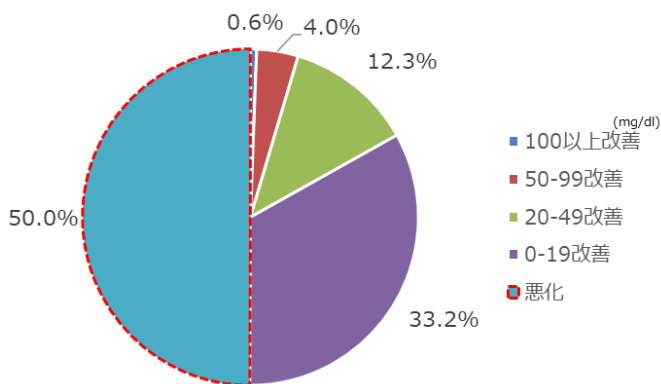
平成28年度と平成29年度の健診結果を比較した場合の、“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の数値の改善割合は以下の通りです。

受診群の約8割が数値の改善に至っている一方、未受診群は半数に数値の悪化が見られます。

受診者_空腹時血糖改善割合_H28・29比較(n=104)



未受診者_空腹時血糖改善割合_H28・29比較(n=702)

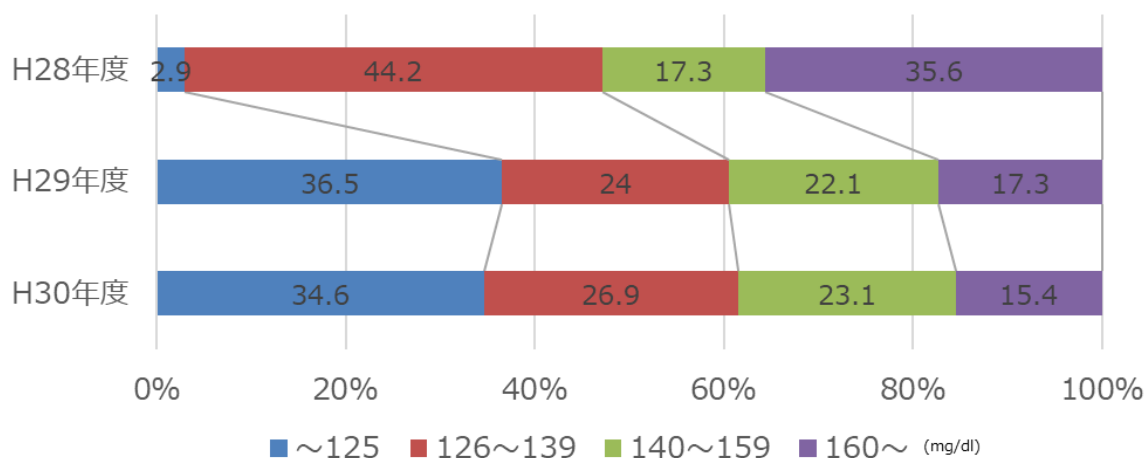


＜高血糖者に関する調査結果＞

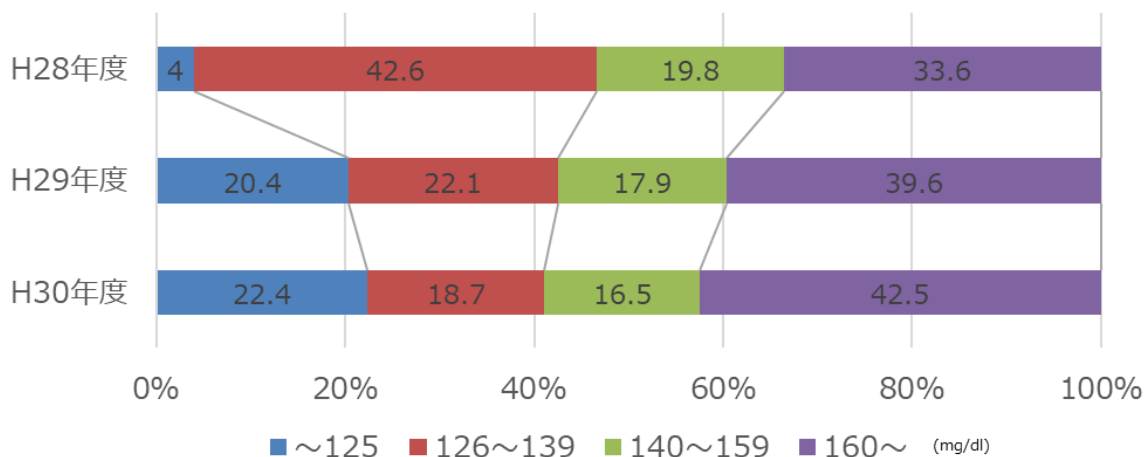
“3か月以内受診群”と“3か月以内未受診群”の血糖値構成割合の推移は以下の通りです。

受診者の多くに血糖値の改善が見られる一方、未受診群は重症化の傾向が見られます。

受診者_空腹時血糖構成割合（n = 104）



未受診者_空腹時血糖構成割合（n = 702）



考察

このたびの調査結果から、協会けんぽより受診勧奨を受けた方のうち、3か月以内に受診した群については、血圧・血糖値のいずれも、翌年度以降の健診時の数値（平均値）が改善していることがわかりました。

このことは、症状が重症化する前に医療機関へ受診し、服薬等を通じて血圧・血糖のコントロールが適切に行われたことによるものと思われます。

一方、未受診者群については、既に医療機関への受診が必要なほど数値が悪いにもかかわらず、更に数値が悪化する傾向が見られました。

以上のことより、血圧・血糖値が高い方については、早期に医療機関へ受診し、医師の指導による服薬等を通じた適切な管理が、血圧・血糖値の改善には非常に重要であることがわかります。

早期受診は健康保険料率にも影響します

協会けんぽでは、加入者の皆様の健康づくりに関する取り組みが健康保険料率に直接影響してくる“インセンティブ制度”を平成30年度より導入しており、「要治療者の医療機関受診率」はインセンティブ制度の指標の一つとなっています。

山形支部においては、「要治療者の医療機関受診率」が低く、支部の傾向として、“健康診断の受診率が高いが、健診後の要治療者の医療機関への受診率は低い”ということが挙げられ、健診結果に対する対策の強化が求められています。

評価指標	順位
【指標 1】特定健診等受診率	2位
【指標 2】特定保健指導実施率	5位
【指標 3】特定保健指導対象者の減少率	39位
【指標 4】要治療者の医療機関受診率	33位
【指標 5】後発医薬品使用割合	5位
総得点	6位



※インセンティブ制度の順位については、受診率の他に前年度からの伸び率等を加えた上で順位付けされております。

このことから、協会けんぽでは、病気の重症化を予防するために、要治療者に対する受診勧奨の強化や、本人にとってより身近な存在である会社の担当者からのお声がけ（受診勧奨）についてお願いをしております。

報道機関様におかれましては、今回の分析結果については是非お取り扱いいただき、早期受診の重要性について周知くださいますようお願い申し上げます。

○参考資料

医療機関への受診勧奨を受けた要治療者の医療機関受診率 (平成30年度)

順位	支部名	受診率	順位	支部名	受診率
1	福井	16.2%	24	岐阜	10.2%
2	佐賀	13.7%	25	島根	10.2%
3	三重	11.9%	26	宮崎	10.1%
4	福岡	11.6%	27	兵庫	10.1%
5	石川	11.6%	28	長崎	10.1%
6	岩手	11.2%	29	広島	10.1%
7	鹿児島	11.1%	30	鳥取	10.0%
8	茨城	11.0%	31	京都	9.9%
9	群馬	11.0%	32	岡山	9.9%
10	熊本	10.8%	33	香川	9.9%
11	埼玉	10.8%	34	新潟	9.9%
12	長野	10.8%	35	和歌山	9.9%
13	沖縄	10.7%	36	福島	9.8%
14	秋田	10.7%	37	千葉	9.8%
15	奈良	10.7%	38	山梨	9.7%
16	大阪	10.6%	39	東京	9.7%
17	富山	10.6%	40	静岡	9.7%
18	滋賀	10.6%	41	青森	9.6%
19	宮城	10.6%	42	北海道	9.6%
20	神奈川	10.5%	43	栃木	9.5%
21	大分	10.4%	44	山口	9.5%
22	山形	10.4%	45	愛媛	9.5%
	全国平均	10.3%	46	徳島	9.1%
23	愛知	10.3%	47	高知	9.0%

協会けんぽより受診勧奨を受けた方の3か月以内の受診率は上記の表の通りであり、山形支部は10.4%（全国22位）の順位です。